

概 要

開催日時 / 令和8年1月17日（土）
午後2時 ～ 午後5時30分

場所 / 草加市総合福祉センター
出会いの森 教養文化室

出席者 / 委 員 9名（1名欠席）
事務局 総合政策課
スポーツ振興課
みどり公園課

次 第

1.開会

2.現地視察

3.前回の振り返り

4.協議事項

・そうか公園リニューアルに必要な視点

4.閉会

協議の内容（一部抜粋）

- ・ インクルージブ遊具は今後求められると思う。また、そうか公園の魅力、他の街区公園との差異としては、樹木、木の実、水、花などの自然であり、子どもの遊びを誘発する場所にしたい。
- ・ そうか公園全体と周辺施設との関係性なども含めて位置づけなどを検討した方がよいと考えており、公園内だけで考えすぎない方がよい。柿木・青柳グランドデザインでも示されているかもしれないが、隣接地に高校や老人ホームがあり、特に平日の昼間に部活やレジャーで利用してもらう場所にできれば良い。
- ・ そうか公園を現地視察して、日常に溶け込んだ場所だと感じた。
- ・ 利用価値を日常と非日常で分けると、日常に溶け込まなければ長く愛される公園にはならない。加えて、非日常的な場にもならないと市外から訪れる人を呼びこむことや収益化することは難しいと思う。
- ・ 1つの場を日常と非日常のどちらでも使える場として活用すれば資源を最大限に活かせる考える。
- ・ そうか公園のみどりは価値がある。また、樹林地と、オープンスペースや生物の場所が分散しており、それらにこどもの成長や教育に関わる視点を掛け合わせたい。
- ・ クラスでは話せない子も公園であれば話ができるという話を聞いており、公園はこどもの成長や教育に繋がっていると感じる。

協議の内容（一部抜粋）

- みどりと健康やコミュニティ、楽しみという組み合わせもある。例えば樹林地や園路が周回コースになっており、ジョギングや散歩をしている人が多いが、自転車でも回れるようにしたり、間伐した樹木でアスレチック遊具を設置し、大人の健康エリアや、子どもは遊具で楽しめる空間をつくると価値が高まる。散歩する夫婦なども交流できる。
- 多目的運動広場は、利用率を見ると利用されていない時もある。近所の人が気軽にサッカーができる状況ではないため、目的や時間、エリアを区切り、近所の人も日常使いできる場にすると良いと思う。
- キャンプ場や防災と遊びを掛け合わせて、世代間交流の昔遊びの伝承や、ウォーキング大会を世代間や健常者・障害者も交えて実施するのも面白い。
- 隣接して八条用水があり、そうか公園北側のスポーツ推進地区も含めて回遊できるように整備し、健康づくりと組み合わせで誰もが安心してジョギングやウォーキングができるよう整備するのが良い。
- イベント広場はあまり活用されていないため、大屋根をかけて野外音楽祭などを開催してもいいと思う。防災用として緊急時の備蓄受け入れ場所にも使え、夏の日陰や雨除けとしての機能も期待できる。
- 水と緑は、柿木・青柳グランドデザイン会議でも重要視されており、そうか公園の存在価値として挙がっていた。

協議の内容（一部抜粋）

- この公園にはいろいろな場所があるが、多くは日常的な目的で、その他の利用があまりされていないと思った。自分だったらここにどうしたら平日に来るかを考え、主に滞在するためのアイデアをいろいろ考えた。特に小高い休憩所は、現地視察の際に多くの人が利用しており、高い場所から修景池が見えるのも良い。コーヒーを飲みながら目的無く、のんびりできる空間があるといいと思う。修景池が釣りや水遊びができる場所になれば、夏は子どもも遊びに来て、大人も交流できる場になるのではないかな。
- 多目的運動広場では、野球場と陸上トラックの間の土に段差があるとの説明があったが、野球場を他の場所や拡張エリアに集めて、多目的広場は他のスポーツに特化するのも一案だと思う。真剣にスポーツをする人と、平日に健康増進で来る人が交流し、トレーニングの方法を教え合うようなつながりができれば良い。こうした組み合わせや工夫によって、より多くのことが可能になると思う。
- 公園といえば昼間の平日にこういった活動ができるのか、大きな規模が必要ではないかと思ったが、恵比寿にどろんこ遊びができる公園があり、こどもは何かを続けることで集中力が高まると感じている。家の周りにある、小さい公園では危険を避けるために難しいことはさせにくいけど、そうか公園には保護者と一緒に来て、水遊びなどのスペースがあれば子どもの発達に良い影響を与えると思った。
- ヨーロッパの公園のように、部活動の練習場として吹奏楽やダンスなどの練習の場として利用され、音楽や華やかさが広がる場になればよい。
- 行政は、学校や保育園に公園利用を促して、利用時の支障となる部分をヒアリングして、それを取り除き、より使いやすくすべきだと考える。

協議の内容（一部抜粋）

- もっと多くの人が年齢や性別を問わず集まり、挨拶から人と人の交流が広がるような場所になると良い。公園全体でなくともペットに対する優しい公園など、ドッグランとも違う場所があると朝から夕方まで利用する人がいると思う。
- 広場等の飲食店で、みどりが見え、日差しが入るようなガラス張りで、屋外にいるのが大変な子どもやお年寄りなどの交流の場になるような場があるといいと思う。有事の際もそのような店舗等がひとつあるだけで、こども等が駆け込めたりもすると思う。
- お花畑などで全世代の滞在できる場があるといいと思う。
- そうか公園にはボランティアや公園愛護会のような組織がないと伺った。地域の憩いの場であることは視察を通じてよく実感したが、管理に参加することは少しハードルが高く感じられるかもしれない。そこで、子育て世代やスポーツ施設を利用する方も気軽にボランティア的に管理に関わるきっかけや仕組みがあれば、スポーツ施設を利用して帰るということだけ、公園への愛着がさらに深まるのではないかと考える。
- そうか山でのキャンプや環境教育、バードウォッチング、池の生き物調査は自然とのふれあいを深める良い機会になると思う。
- 近くの田んぼを借りてお米作りや餅つき大会を行ったり、こどもたちが草加せんべいの手焼き体験をするなど、地域の産業や文化を広めるイベントも魅力的である。こうした取組が地域の交流や理解を深めるきっかけになると思う。